

ESG/SDGsに関わるマテリアリティ(重要課題)

ESG/SDGsに関わるリスクと機会、インパクトおよび当社グループの課題

当社グループは、「2030年に向けたビジョン」の実現を目指し、ESGへの取り組みを強化しています。2015年に国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)と当社グループのビジョンとは、「持続的な共生社会の実現を目指す」という目的が一致していることから、当社グループにおいても、国連の理念に賛同し、SDGsに関連する課題の解決に取り組む考えです。具体的には、ESG/SDGsに関わるリスクと機会を特定し、それらが顕在化した場合のインパクトを想定することにより、ESG/SDGsに関わる当社グループの課題を抽出しています。特に重要度の高い課題である「レジリエントなインフラ整備への貢献」、「環境に配慮した設計・施工」、「働き方改革の推進」については、マテリアリティ(重要課題)として特定しています。以下の表のSDGsアイコンの大きさは、SDGsの観点における当社グループの課題の重要度を示しています。

ESG	SDGs	ESG/SDGsに関わるリスクと機会	リスクと機会が顕在化した場合のインパクト※1	ESG/SDGsに関わる当社グループの課題※2
S	9, 11	地震や台風などによる大規模災害の発生	インフラの破損による生活および産業基盤の劣化	レジリエントなインフラ整備への貢献
E	15, 13, 14	環境に配慮しない開発による自然環境の破壊	生態系の破壊や水源の汚染	環境に配慮した設計・施工
E	12, 13	建設資材に含まれる天然資源の浪費	天然資源の減少にともなう持続可能性の減退	リサイクルによる廃棄物の抑制
S	8	危険をともなう労働環境	労働者のモチベーションの低下	安心安全な労働環境
S	11	空き家や空き店舗、老朽建物の増加	治安・衛生環境の悪化や建物倒壊による災害	不動産ストックの有効活用
S	5, 8, 10	労働環境における多様性の欠如	女性をはじめとする多様な人材の雇用機会の損失	ダイバーシティ経営の推進
E	12, 13	建築物の省エネルギー化需要の増加	建築物の省エネルギー化の進展	建築物の省エネルギー設計
S	9	ICTの発展と建設技術への応用	ICTによる建設技術の向上	ICTによる技術力と生産性の向上
S-G	9, 11	高品質インフラの需要の高まり	長寿命なインフラの整備	施工品質の確保・高度化
E	7, 13	気候変動への対策となるグリーンエネルギー需要の高まり	CO ₂ 排出量の少ない発電方式の普及	再生可能エネルギー事業の推進
S-G	17	SDGs達成に向けた地域社会・企業との連携の促進	地域社会・企業とのパートナーシップによるシナジーの発揮	地域社会・企業との連携
S	8	業務効率化による長時間労働の削減	建設業の魅力の向上と従業員の健康増進	働き方改革の推進
S	8	働き方の多様化と雇用流動化の進行	多様な働き方の実現	ディーセントワークの推進

※1 リスクに関しては負のインパクト、機会に関しては正のインパクトを記載しています。
 ※2 ESG/SDGsに関わる当社グループのマテリアリティ(重要課題)は緑文字で示しています。

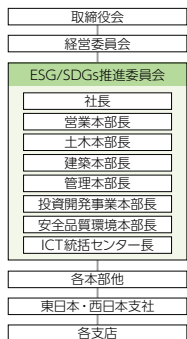
マテリアリティ特定のプロセス

ESG/SDGsに関わる当社グループのマテリアリティ(重要課題)は、以下のプロセスにより特定しています。

- 課題の抽出**
各部門において、ESG/SDGsに関わる当社グループの課題を抽出しました。
- 課題の優先付け**
抽出した課題に対して、ESG/SDGsに関わるリスクと機会およびインパクトを分析し、可能性と影響度の2軸で重要度を評価しました。
- マテリアリティ(重要課題)の特定**
ESG/SDGs推進委員会により、重要度の高い課題をESG/SDGsに関わる当社グループのマテリアリティ(重要課題)として特定しました。

ESG/SDGs推進体制

当社グループは、ESG/SDGs推進委員会を設置し、右図の体制によりESG/SDGsに関わる取り組みを推進しています。ESG/SDGs推進委員会が策定した方針は、全社の計画に反映し、各本部等を通じて、展開しています。



SDGsマテリアリティマップ

